

「第5期基本構想第2次基本計画(2次原案)」に対する意見募集の結果

1. パブリックコメントの概要

- (1)意見募集期間 令和2年1月20日(月)から2月10日(月)まで
 (2)意見提出者数 1人(2件)

2. いただいた意見・質問の内容及び市の考え方

No	対象箇所	意見の概要	市の見解	修正の有無
1	計画 P.54 基本施策10「高齢期の充実した生活への支援」	経団連会長を筆頭に経営者が終身雇用の維持は困難と発言し、副業を解禁するなど昭和、平成にはなかった働き方改革を進める企業が増えている。今後、現役と高齢者を区分する世代の線引きは曖昧になり、高齢期の生活の多様性が高まれば、高齢者施策対象者を年齢で区分することが困難になっていくのではないかとと思われる。 多様な高齢期の生活をより充実したものとし、高齢者の社会参加率を向上させるためには、これまでの年齢区分による一律の施策から、現役時代からの連続性を考慮した施策に切り替えてゆく必要があるのではないかと。 例えば「シルバー人材センター」を「シルバー創業センター」へと改組し、地域の仕事を待ち受ける現在の人材バンク機能にとどまることなく、現役時代の副業の支援から徐々に比重を移し複業へ、そしてリタイア後に地域での主体的な起業を促す連続的な支援の機能を持たせるなど、現有の機関の枠組みに囚われない大胆な施策が必要と考える。	現在、市が取り組む高齢者の社会参加に関する施策は、地域における高齢者に対する見守り活動や生活支援、通いの場などがございます。 これらに参加する方につきましては高齢者だけでなく現役世代の方にも参加していただくことを想定しており、実際に50歳代の方が参加されている例もございます。 また、シルバー人材センターは、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づき当道府県知事が指定する団体でございますので、市がその組織を改組することは難しいと考えますが、現役時代からの連続性を考慮した施策の可能性については今後も研究してまいりたいと考えています。	無
2	計画 P122	「オープンデータとして公開したファイルの数(種類)」について KPI指標の説明は「ホームページ上にオープン データとして公開したファイルの数(種類)」その目標値は、令和5年が4種類、令和9年が9種類となっているが、延べファイル(種類)数であるのか、1年度当たりのファイル(種類)数であるのか、不明瞭である。 (a)「ホームページ上にオープン データとして公開したファイルの延べ数(種類)」あるいは、(b)「ホームページ上にオープン データとして1年度中に公開したファイルの数(種類)」と明瞭に記載すべきと考える。 また、東京都オープンデータカタログサイト(https://catalog.data.metro.tokyo.lg.jp/organization)によれば、既に多摩地域自治体の公開データセット数は、調布市93、八王子市82、稲城市45、三鷹市17、小金井市9、狛江市4など、積極的な公開が進んでいる。 公開できるオープンデータの数(種類)や担当職員数が自治体毎に異なることは理解するが、オープンデータは市民協働のパワー(知恵)の源泉でもあり、市民のICT利活用が暮らしやすさにも影響を与えるこれからの時代に、仮に(a)であるとすれば、年度あたり約1ファイル(種類)ということであり、「オープンデータの公開・拡充への取組を推進し、」とは、とても言えないのではないだろうか。	目標値は、延べファイル(種類)数になります。計画 P151の目標値の説明を参照しないと不明瞭な記載となっておりますので、頂いたご意見の(a)「ホームページ上にオープン データとして公開したファイルの延べ数(種類)」を記載するようにします。 数については、ご指摘のように、積極的な市に比較して少ないのが現状です。 データを公開した場合、継続的に更新していかなければ、データを利用される方にとって利用しにくいものとなってしまいうため、公開するデータについては、継続的に更新していく必要があると考えています。 利用される方にとって有用であり、かつ、市の現状に照らし継続的なメンテナンスが可能と考えられるデータを見極め、着実に公開への取組を進めていきたいと考えています。	有